

5部長に 聞く ②

社会に向けた
「人材育成」の環境づくり



国際交流
推進部長

4・5面に関連記事

国学院大学の大学運営を担う執行部と称される5部門(教務部、学生部、入学部、就職部、国際交流推進部)の各部長は、どのような取り組みを進めているのか。6月号では就職部と国際交流推進部の両部長に語ってもらった。両部門は本学の人材育成において、極めて重要な役割を担っている。

就職部では、きめ細かな就職支援を展開している。本学の就職率は96・0%の高水準を維持しており、就職部が大学をあげて関係強化を推進している「チャレンジ推奨企業」約240社に就職する学生は、年々増加している状況だ。また、日商簿記検定や宅地建物取引士、公認会計士などの資格を在学中に取る学生も増加してきており、「就職支援に手厚い大学」としての認知も築かれつつある。

国際交流推進部が実施する本学学生への手厚いサポートにより海外留学がより身近になっている。留学を契機に学びを深め、自身の希望に沿った進路を開拓する学生も多い。さらに、海外の学生に日本語や日本文化について学ぶ機会を提供し、本学を拠点に日本を研究する海外の研究者を支援することで、中期5カ年計画で掲げている「多様性や共生社会を考える教育」体制の実現を目指している。

中曽根玲子就職部長(法学部教授)は「1年次からのキャリア教育で、早期の就業観の形成に努めたい」、田原裕子国際交流推進部長(経済学部教授)は「海外留学の制度、国際交流の場の『見える化』をして、留学希望者の背中を押したい」とそれぞれ抱負を語った。



就職部長

令和5年度卒 就職率96・0%

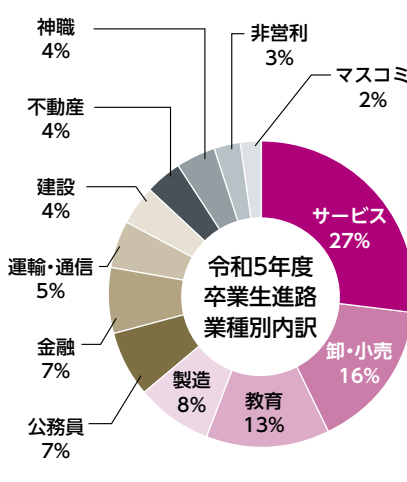
アフターコロナ 価値観変容で進路多様化

令和5年度(令和6年3月)卒の国学院大学卒業生の就職率は、96・0%で、前年度から0・8ポイント減少したが、依然好調だ。学生の就職をとりまく環境は、コロナ禍前の水準に回復し「売り手市場」が続いている。一方で、多様化する個人の価値観が影響しているのか、学生が就職にこだわらずワーキングホリデーや進学を希望するなど、進路が多彩になっていることが微減の一因と考えられる。

民間企業への就職では、建設業、製造業の就職者が前年度に比べて増えた一方、情報通信業(「サービス」内)は減少し、業界による増減が見られる。公務員は国家・地方合わせ148人となり、前年度から38人増加した。教育関係では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員と保育士を合わせ247人となった。各自治体による教員採用試験に合格し、公立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校の正規採用者は前年度より55人増え、136人だった。神社関係では、153人の神職資格取得者のうち、124人が神社界奉仕先神社が実家の場合も含むに進んだ。

3、2年生も早めの準備を

政府要請のルールにより6月1日、令和6年度(令和7年3月)卒業予定者の採用活動が解禁となった。引き続き従業員数5千人以



みはるかすもの

大正13(1924)年6月3日に逝去した作家、フランツ・カフカ。没後100年となる今年は催しや刊行物などが相次ぎ、その仄暗い世界観からすれば驚くほどのにぎわいを見せている▼現在、人々とカフカの接点の一つは、意外なことにゲームだ。生誕の地プラハのデベロッパが、その作品群を材にとって開発したアドベンチャーゲーム「Playing Kafka」を配信し、好評を博している。100年の時を経て、その世界のプレイヤーとなる「体験」が可能になったことは感慨深い▼読書好きには、今年4月刊のマックス・プロット編「カフカの日記 新版1910-1923」(谷口茂

訳、頭木弘樹解説、みすず書房)が楽しい。この新版はあまりの人気ぶりに、増刷分の出来は秋頃と版元がアナウンスするほどだ▼日記として書きつけられながらも、作品同様ふとした瞬間に深淵へ誘われるあのタッチを堪能できる。と同時に役所勤めに心身を削られ、「ぼくは溺れないように頭をできるだけ長いあいだ上げていただけである」とボヤク様には、何とも言えない親近感も覚える▼カフカの世界観は、決して遠いものではない。哲学者クレール・マランは著書「断絶」(鈴木智之訳、法政大学出版局)で、「変身」に寄せつつ「私が好きだった人のいた場所で、似たような姿を見せられている、この見知らぬ人は一体誰なのだろう」と語る。カフカの表現は、苛烈なコロナ禍を経験した私たち皆への、切実な問いをも含みこむ。

戦国儀式再現「加冠の儀」

一乗谷朝倉氏遺跡博物館と協定結び 戦国期の元服式を再現



福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館が主催する北陸新幹線福井・敦賀開業記念の特別展Ⅱ「戦国大名朝倉氏 武威の煌めき『馬廻ける戦国の庭』」の関連行事として、5月18日に特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡(福井市)で、戦国儀式再現「加冠の儀」が執り行われた。本行事は、永禄11(1568)年に朝倉義景が烏帽子親(後見人)となり朝倉館で行われた足利義昭の「加冠」(元服式)を、伝統の装束を着し華やかに再現したもの。

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館と本学は歴史的儀礼の再現を目的に令和6年3月に協定を締結しており、星野光樹・神道文化学部准教授、山口祐樹・神道文化学部助教、本学学生等が儀式や装束の解説や儀式の補助、装束の着脱などを行い、本学から参加者が着用する装束の貸し出しを行った。

当日は、福井県知事の杉本達治氏Ⅱ写真左から2人目Ⅱが冒頭「足利義昭は朝倉義景に加冠されることによって権威を示し、後に將軍になった。今でいうところの情報発信の手段である。協定を結んだ国学院大学から装束の提供や所作などを教わり、当時の儀式を忠実に再現できることとなり、協定に感謝している。これから遺跡の特色や朝倉氏の歴史を発信していきたい」とあいさつ。その後、星野准教授が装束や加冠の儀についての解説を実施し、杉本知事らが加冠親として参加者の新成人26人に対して加冠が行われた。儀式の後には、本学学生による雅楽の演奏で新成人の前途を祝福した。

名誉教授の称号 佐藤彰一氏に授与

国学院大学は、令和5年度をもって退職した佐藤彰一氏(元法学部教授)＝写真＝へ4月1日付で名誉教授の称号を贈ることを決定した。授与式は渋谷キャンパスで6月4日に行われた。



たまプラーザ宇宙の学校2024 自然科学教育の充実を図る

人間開発学部宇宙の学校プロジェクトが主催する「たまプラーザ宇宙の学校」の令和6年度の第1回が5月18日に開催された。本イベントは今年で14回目となり、小学1・2年生の親子連れ45組が参加した。このイベントは学生が準備や運営を担い、子どもたちの論理的科学的思考能力を育成する理数教育、中でも自然科学分野の教育の充実を図る機会として宇宙航空研究開発機構(JAXA)などの協力のもと開催している。

開校式では、近藤良彦校長(同学部教授)が「宇宙の学校とは」をテーマに講演を行った。続く「うちゅう〇×クイズ」では熱気球に関する問題を出題。参加者は知識を深めた後、班ごとに「巨大熱気球」を製作し、打ち上げるプログラムが行われた＝写真。



宮廷装束着装披露 5年ぶり開催

衣紋道研究会が主催し、神道文化学部が共催する衣紋披露「王朝装束の着装披露」が6月8日に渋谷キャンパスで開催された。この行事は、伝統文化を知識・モノ・技術で継承する衣紋道研究会と神道文化学部によって、年に1回披露されており、今年で7回目の開催。

当日は、衣紋道研究会の会員が衣紋方を務め、御方役の鈴木隆大さん(神文4)と相澤なつみさん(同)に、束帯と女房装束が着装された。コロナ禍の影響で5年ぶりの開催となったが、一般来場者も含め約90人が参加。普段は見ることのできない着装の様子を真剣に見つめていた。



御方役の鈴木さん(左)と相澤さん

国際シンポジウム

EUの農村開発とボトムアップ型の 観光振興への理解を深める



観光まちづくり学部石本研究室が主催する国際シンポジウム「EUにおける農村開発とボトムアップによる観光振興を考える」LEADER助成によるギリシャ・エーゲ海島嶼地域の事例報告から」が5月24日、たまプラーザキャンパスで開催され、約150人が参加した。

第1部では、石本東生・観光まちづくり学部教授Ⅱ写真右から2人目Ⅱが基調講演で「LEADER」プログラムの概要を説明した。LEADERは平成3(1991)年にEU加盟国で始まった農山漁村の開発資金を助成する公的枠組み。ギリシャでは、現在50の「LAG」と呼ばれる官民共同の開発公社がプログラムの実施・管理を担い、各期に約1000万ユーロ(約17億円)を助成し、ワイナリーや農場などで特産品に付加価値を与え、地場産業振興と観光客

誘致につなげている事例を紹介した。

続いて観光地として有名なクレタ島とロードス島に拠点を置く二つのLAGの代表者がプレゼンテーションを行った。LEADERは、計画から公募の段階でステークホルダーの意見を汲み取りながら進めていく徹底した「ボトムアップ型」の手法が特徴。イラクリオ開発公社のマヴロヤニス・ヨルゴス代表はLEADERの基本原則の中で地域との「パートナーシップ」が最も重要だと述べた。ドデカニス開発公社のジフォス・コンスタンティノス代表は「全ての自治体に向いてはアライングを行う。できれば地域の全員からニーズを聞きたい」とボトムアップでの進め方を説明。イラクリオ社のタヴラドラキ・アマリア副代表は助成事業の選定基準に、若者や女性の雇用創出などの観点を加味していることを強調した。

第2部のパネルディスカッションは、会場との質疑応答形式で進行された。地方への公的資金投入に都市部の反発はないかという質問に、タヴラドラキ氏は「都市部対象のプログラムも別にある。農村地域には寄り添うべき状況があり、LEADERの助成は必要なもの」と認識されている」と応じた。他にも質問が絶えず寄せられ、会場は熱気に包まれていた。

国際交流バスハイクを開催

学生部が主催する国際交流バスハイクが5月26日に行われた。本イベントは、留学生と日本人学生との交流を目的として開催され、教職員の引率や日本人学生、留学生13人を含む約40人は、神奈川～東京にまたがり日帰りバス旅行を行った。富岡八幡宮で正式参拝したほか、八景島シーパラダイスでの謎解きウォークラリーやバーベキューを通して、親睦を深めた。

参加した留学生は、「イベントを通して、新しい友達ができたので、とても充実した1日になった」とうれしそうに語っていた。



高校教員対象入学試験説明会
最新入試情報を共有

高校教員を対象に国学院大学の入学試験制度や教育の特徴などを説明する入試説明会が5月24日、渋谷キャンパスでの対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。

冒頭、石川則夫副学長（文学部教授）が「新課程への移行に伴い、各学部各学科の入試制度を変更している点があるので、本説明会で理解を深めていただきたい」とあいさつ。続いて入学課の職員が令和6年度入学試験の概況を説明し、青木敬・入学試験委員長（文学部教授）が令和7年度入学試験制度について説明した。当日は、個別相談ブースも設けられ、各学部の教員や入学課職員が高校教員からの質問に応じた。

全国院友高等学校長会総会
教員志望学生を全面支援

全国院友高等学校長会の総会が5月22日、渋谷キャンパスで開催され、高等学校長を務める院友（卒業生）ら約40人が参加した。

総会では、櫻井^{まどか}丸会長（昭60卒・93期法・八千代松陰中学・高等学校）が「母校から一人でも多くの教員志望者を輩出してほしい」とあいさつすると、針本正行学長は「教員を目指す学生の思いを大事にし、教育体制を整えていきたい」と述べた。続いて、教員志望の学生を全面的に支援することなどについて審議・承認されたほか、本学の教員就職状況や入学試験の概況が報告された。

終了後の懇親会では、院友校長と教職員らとの情報交換が積極的に行われた。

令和5年度学校法人国学院大学決算は、監事および監査法人の監査を経て、5月30日に開催された理事会で承認、同日開催の評議員会に報告、了承された。

令和5年度は、学校法人のガバナンス強化や情報公開の推進などの社会的状況を背景に、「中期5ヵ年計画」に則り策定された事業計画を円滑に遂行した。

法人全体では、神殿造替工事の開始に伴い仮殿遷座祭を執り行ったほか、大学部門においては厚生寮の建築など大型工事を開始した。また、ウクライナ情勢を発端とする光熱水費の価格上昇や円安による物価高そして能登半島地震への対応など、情勢変化に柔軟に対応した1年となった。

財務面では法人全体で基本金組入前当年度収支差額が13億5500万円の収入超過となり、極めて堅調な決算となった。

※詳細は学校法人国学院大学HPをご覧ください。

資金収支計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：百万円)

収入の部				支出の部			
科 目	予算	決算	増減	科 目	予算	決算	増減
学生生徒等納付金収入	14,542	14,729	△187	人件費支出	10,313	10,398	△85
手数料収入	728	784	△56	教育研究経費支出	5,106	4,695	411
寄付金収入	362	271	91	管理経費支出	1,416	1,339	77
補助金収入	2,784	2,828	△44	借入金等利息支出	7	5	2
資産売却収入	0	33	△33	借入金等返済支出	545	545	0
付随事業・収益事業収入	229	288	△59	施設関係支出	643	705	△62
受取利息・配当金収入	188	321	△133	設備関係支出	401	292	109
雑収入	312	399	△87	資産運用支出	3,556	3,589	△33
借入金等収入	501	500	1	その他の支出	514	537	△23
前受金収入	2,705	2,862	△157	予備費	294		294
その他の収入	1,762	1,841	△79	資金支出調整勘定	△349	△574	225
資金収入調整勘定	△3,087	△3,230	143	当年度支出合計	22,446	21,531	915
当年度収入合計	21,026	21,626	△600	翌年度繰越支払資金	8,128	9,643	△1,515
前年度繰越支払資金	9,548	9,548	0				
収入の部合計	30,574	31,174	△600	支出の部合計	30,574	31,174	△600

事業活動収支計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：百万円)

		科 目	予算	決算	増減			科 目	予算	決算	増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	14,542	14,729	△187	特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		手数料	728	784	△56			雑収入	0	0	0
		寄付金	328	160	168			その他の特別収入	62	169	△107
		経常費等補助金	2,767	2,777	△10			特別収入計	62	169	△107
		付随事業収入	179	231	△52			資産処分差額	4	16	△12
	事業活動支出の部	雑収入	312	400	△88	事業活動支出の部	その他の特別支出	0	0	0	
		教育活動収入計	18,856	19,081	△225		特別支出計	4	16	△12	
		人件費	10,177	10,321	△144		特別収支差額	58	153	△95	
		教育研究経費	6,845	6,509	336		【予備費】	294		294	
管理経費		1,529	1,451	78	基本金組入前当年度収支差額		300	1,355	△1,055		
教育活動支出計		18,551	18,281	270	基本金組入額合計※		△1,336	△1,336	0		
教育活動収支差額		305	800	△495	当年度収支差額		△1,036	19	△1,055		
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	188	342	△154	前年度繰越収支差額		△9,774	△9,774	0	
		その他の教育活動外収入	50	65	△15	基本金取崩額		0	0	0	
		教育活動外収入計	238	407	△169	翌年度繰越収支差額		△10,810	△9,755	△1,055	
		借入金等利息	7	5	2	(参考)					
		その他の教育活動外支出	0	0	0	事業活動収入計		19,155	19,657	△502	
	事業活動支出の部	教育活動外支出計	7	5	2	事業活動支出計		18,855	18,302	553	
		教育活動外収支差額		231	402	△171	※■ 第1号基本金…8億500万円 教育の質向上のために取得した固定資産の価格				
		経常収支差額		536	1,202	△666	■ 第2号基本金…3億円 教育の質向上のために将来取得する固定資産取得に充てるもの				
						■ 第3号基本金…1,200万円 基金として継続的に保持し運用すべき資産となるもの					
					■ 第4号基本金…2億1,900万円 恒常的に保持すべき資金の額						

貸借対照表

令和6年3月31日

(単位：百万円)

資産の部				負債および純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減	科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	119,214	117,898	1,316	負債の部	12,551	12,684	△133
有形固定資産	64,076	65,011	△935				
特定資産	52,335	50,047	2,288				
その他の固定資産	2,803	2,840	△37	基本金総額	126,512	125,176	1,336
流動資産	10,094	10,187	△93	第1号基本金	106,591	105,786	805
				第2号基本金	3,400	3,100	300
				第3号基本金	15,251	15,239	12
				第4号基本金	1,270	1,051	219
				繰越収支差額	△9,755	△9,774	19
				純資産の部合計	116,757	115,402	1,355
資産の部合計	129,308	128,086	1,222	負債および純資産の部合計	129,308	128,086	1,222



『国学院雑誌』創刊号

明治20年代の皇典講究所の財政は困窮していた。山田顯義所長以下^{まどか}の当事者はさまざまな財政策を行った。その一つが増収を企図した明治22（1889）年の『皇典講究所講演』の創刊であった。ところが、松野勇雄幹事がみずから各所へ働きかけるも、評判のわりにはその成果は上がらず購読者は減少の一途をたどった。23年に皇典講究所は拡張計画を立て国学院を設立するが、25年に山田所長、26年に松野幹事を相次いで喪うと、『皇典講究所講演』の販売数はいっそう激減し廃刊の止むなきに至った。さらに26年12月には初代院長であった高崎正風が突如辞任し、皇典講究所・国学院は苦難の時代を迎えることとなる。27年1月に院長として前社寺局長の國重正文が就任すると、いくつかの経営再建策を行い、その一つに『国学院雑誌』の発刊があった。

当時、新設の国学院の経営も当然のことながら基金の募集が窮迫しており、国学院の事業に賛成する者を優遇する規約として「国学院賛成員待遇規約」を定め、広く募金運動を展開することとなった。全十九条からなる規約の第十条には「五年間毎月一回本院ニテ国学、又ハ国学研究ニ必要ナル諸学科ノ講義・論説・考証・歌文・質義及ビ現今文学ノ状況等ヲ掲載セル雑誌（非売品）ヲ発刊シ、之ヲ頒ツベシ」とある。『国学院雑誌』と命名されたこの雑誌は、当初の賛成員に頒布する非売品から、やがて広く学界の要望にも応じて

発売することとなる。

明治27（1894）年11月、第一巻の巻頭に発刊の趣旨が述べられており、一つは、普通教育への貢献を期して、国史・国文の普及を図り、一つは深くこの学問を研究してその新彩を発揮することある。創刊時の発行兼編輯代表者は青戸波江、印刷所は皇典講究所印刷部であり、定価は郵税共金20銭であった。執筆陣も、物集高見・篠田利英・栗田寛・湯本武比古・本居豊穎・川田剛・坪内雄蔵・小中村義象・落合直文・阪正臣・松本愛重・関根正直という錚々たる人物が筆を執っている。また、論説のほかに、講述・評釈・雑録・応問・彙報・詞林などの欄を設け、主な連載は後に書籍化された。まさに『国学院雑誌』は、新しき国学の発展に寄与することを目途としたのであった。

皇典講究所・国学院では、近世から続く国学の学問的英知や新たな研究成果を広く公開して社会へと還元し、教育へ活用することを目的として、複数の雑誌や書籍の編纂・刊行につとめてきた。『国学院雑誌』の創刊の背景には、厳しい経営状況があり、その出版形態も紆余曲折を経てきたが、こにちの国公立大学の中で、明治以来発行を続けている研究雑誌を有する大学は数えるほどしかない。

研究開発推進機構准教授 渡邊卓

『国学院雑誌』創刊の苦難



国際交流推進部では大学の国際化を目指す①本学学生の留学支援②外国人留学生の受け入れ態勢の強化③国際的な研究交流促進の3本柱で施策を進めている。アフターコロナで海外への意識が高まる中、田原裕子国際交流推進部長は「支援制度の見える化を行い、留学希望者の背中を押したい」と語る。



国際交流推進部 留学支援の「見える化」で 留学希望者の背中を後押し

国際交流推進部長・田原裕子

以前から国際交流推進部では各種留学プログラムの派遣先の開拓に取り組んできた。学生の学び、地域や大学の安全性、受け入れ態勢を総合的に評価し、双方のニーズに合う大学と協定を結んできた。協定大学とは教職員同士が密に交流し、良好な関係を構築している。英語圏ではノースウェスト・ミズーリ州立大学（米国）、マニトバ大学（カナダ）、中国語圏では南開大学（中国）、世新大学（台湾）、そのほかル・アブル・ノルマディ大学（フランス）、京畿大学（韓国）、ハノイ大学（ベトナム）などがある。現在は33校と協定を結んでおり、令和5年度

にはそのうち26校と活動実績があった。令和8年度までには30校に増やす方針だ。直近では円安などの影響もあり、経済的要因で留学をためらう学生も少なくない。しかし、本学は留学の支援を目的とした給付型の奨学金が充実している。短期留学ではグローバル・チャレンジ奨学金制度があり、顕著な学修成果を上げた学生に帰国後10万円を給付している。短期留学への奨学金は他大学ではあまりない制度だ。この奨学金の応募者には報告レポートとビデオを提出してもらうが、自身の成長した点、異文化の中での気づきを「留学後に再認識でき、留学を風化させない取り組みとしても奏功している。セメスター留学では年間授業料の半額相当額の助成金や、顕著な学修成果を上げた学生に帰国後10万円を給付する制度もある。また協定留学の場合は協定先大学に授業料を納付する必要はないが、渡航費用、現地の滞在費の負担が大きい。そのため、月額6万〜8万円の奨学金制度や、特に優秀な学生に20万円が給付される「標（しるべ）奨学金制度がある。これらは経済的な理由で留学を躊躇する学生を減らすために設けたものだ。



たはら・ゆうこ

経済学部教授。博士（学術）。専門は都市地理学、地域学、社会保障論。主な著書に、共編著『地域と人口からみる日本の姿』（古今書院、2011）、共著書『渋谷らしさの構築』（雄山閣、2015）、共著書『地域学—地域を可視化し、地域を創る—』（古今書院、2024）など。

三つ目の柱は国際的な研究交流の促進だ。本学を拠点にして日本を研究したいという海外の研究者を受け入れている。滞在費を負担して招聘する国際招聘

海外研究者の日本研究拠点化や 学生の国際共修にも取り組み

研究員と、自弁で研究する国際客員研究員の2種類がある。神道研究、日本文化・日本文学研究をはじめ、日本を対象とする海外研究者にとっては、研究者、

以上のように、本学には国際交流のための取り組みは十分にあるので、さまざまな交流の場を通じて留学や国際交流を身近に感じてもらい、より多くの学生がグローバル人材を目指してくれるよう望んでいる。

図書館の蔵書など他大学にない魅力があるため、国際招聘研究員には多くの応募があり、今年度は3人の研究者を招く。任期は最長で1年間。支援の一環として、本学教員に研究協力者として、一緒に研究することをお願いしている。研究の国際化、本学の研究内容を海外に発信していくための一助にもなっている。

令和5年度からは、海外の学生とともに学ぶことで専門的な学修を深めていく「国際共修」を主眼としたプログラムを開始した。観光まちづくり学部の授業の一環として、ベトナムのドンア大学、タイのタマサート大学に本学学生が出向いて、先方の学生とフィールドワークを行っている。また、米国の大学生が東京で本学学生と東京のまちづくりについてフィールドワークをするなどで多様な視点を養う試みもあった。

協定大学との交流実績を重視し 充実した奨学金で綿密にサポート

短期留学ではグローバル・チャレンジ奨学金制度があり、顕著な学修成果を上げた学生に帰国後10万円を給付している。短期留学への奨学金は他大学ではあまりない制度だ。この奨学金の応募者には報告レポートとビデオを提出してもらうが、自身の成長した点、異文化の中での気づきを「留学後に再認識でき、留学を風化させない取り組みとしても奏功している。セメスター留学では年間授業料の半額相当額の助成金や、顕著な学修成果を上げた学生に帰国後10万円を給付する制度もある。また協定留学の場合は協定先大学に授業料を納付する必要はないが、渡航費用、現地の滞在費の負担が大きい。そのため、月額6万〜8万円の奨学金制度や、特に優秀な学生に20万円が給付される「標（しるべ）奨学金制度がある。これらは経済的な理由で留学を躊躇する学生を減らすために設けたものだ。



社会に向けた「人材育成」の環境づくり

執行部

部長に 聞く

国際化推進に向けた一つ目の柱は、本学学生の海外留学支援だ。具体的には、留学制度は短期留学、セメスター留学、協定期間留学、認定留学の4種類があり、留学期間と学ぶ内容によって分けられる。短期留学は夏休み、または春休み期間に1カ月程度、セメスター留学は1学期間留学する。協定期間留学は1学期または2学期間、協定大学に留学する。短期留学とセメスター留学は語学の学修が主な目的であるのに対して、協定期間留学は交換留学生として現地の学生とともにそれぞれの専門科目を学ぶ点が異なる。認定留学は学生が留学したい大学を申し出て、条件を満たせば海外で修得した単位を本学の単位として認定する制度だ。

また、大手・優良企業や官公庁に内定した4年生約30人を「内定者アドバイザー」としてスカウトし、後輩の相談に乗ってもらう。内定者アドバイザーは、低年次の学生をきちんと支援できる学生に対して研修を行った後、採用している。彼らは、10月から翌年3月まで、平日午後2〜6時にキャリアサポート課に常駐する。就活を終

就職部

高い就職率を維持しつつ、 就職の質をさらに高めていく

就職部長・中曽根玲子



令和5年度卒の国学院大学の就職希望者に対する就職率は96.0%と、高い水準を維持している。「チャレンジ推奨企業」との密接な連携など就職部の取り組みが実を結び、「就職支援に手厚い大学」と評価されつつあるが、中曽根玲子就職部長は「1年次からのキャリア教育を充実させ、就職の質をさらに高めたい」と語る。

企業との信頼関係をベースに 『國學院大學企業大研究』を毎年発行

就職率の高さや就職先は大学のブランド力、信頼度の尺度になる。就職部では、民間企業・公務員などに対する多彩できめ細かな就職活動支援をしてきた。中でも特徴的なのは、本学の学生の就職先としてお勧めする約240社の「チャレンジ推奨企業」を就職部が選定し、掲載する『國學院大學企業大研究』の存在だ。本書は、数多くのリーディング・カンパニーに大学をあげて教職員数十人が訪問し、関係強化を図り、毎年秋季に発行している。一昨年度では3年生に送付してきたが、昨年からは早期化する就職活動に対応して、2年生全員にも送付した。本学と企業の長年の信頼関係がベースにあり、優良企業を知る上で極めて重要な情報が満載だ。こうした関係構築によって「チャレンジ推奨企業」の人事担当者

を招いた企業説明会のほか、1・2年次向けワークショップ、建設現場・空港など本学独自の企業見学会なども実現できている。また、大手・優良企業や官公庁に内定した4年生約30人を「内定者アドバイザー」としてスカウトし、後輩の相談に乗ってもらう。内定者アドバイザーは、低年次の学生をきちんと支援できる学生に対して研修を行った後、採用している。彼らは、10月から翌年3月まで、平日午後2〜6時にキャリアサポート課に常駐する。就活を終

えた直後なので、最新の情報を持っており、何より教職員より気軽に相談できるのが魅力だ。4年生の進路未決定者に対しては、卒業直前まで合同企業説明会や求人マッチング会を開催し、就業を希望する学生が自分に合った職場と出会える機会を提供している。

就活の登竜門とされるのが、OB・OG訪問だ。毎年2月には、元内定者アドバイザーを中心に全国の「チャレンジ推奨企業」や官公庁などで活躍する院友（卒業生）が集まり、1〜3年生向けの「OB・OGアドバイザーズ会」を学内で実施する。学生にとってロールモデルがいることは大事で、院友がどんな就活をしたか、企業や官公庁でどんな働き方をしているかを知ることができる場となっている。

インターンシップも就活に欠かせないものであり、学生が就職前に就労体験ができる貴重な機会だ。そのため企業や官公庁・教育現場などインターンシップ（神社）においては「助勤」の紹介・情報提供を学生に積極的に行っている。民間企業については、キャリアサポート課作成の「おすすめ企業リスト」に、約800社の企業名と一言紹介を記載し、幅広く業界・企業を知ってもらうよう展開中だ。以前はBtoC企業の志望者が多かったが、製造業やBtoBの企業の志望者も増えてきた。さらに進路選択の幅を広げていきたい。

早期化する就職活動に対応 1年次からキャリア教育を実施

かつては「就職活動は3年次から」という意識があったが、インターンシップなどを通じた就活の早期化が進み、3年次からでは遅い状況だ。そのため、1年次からキャリア教育を展開し、早期にキャリアに対する意識付けをしている。自分がどういった職種にマッチしているかを、どのような人生設計をするかを、低年次から考えることが、自分に合った職業を見つけることにつながり、学生生活の充実にもなる。そこで、全学共通プログラムの選択科目として「ライフデザイン・II」を開講し、学部学科を問わず、多くの学生が履修できるように関係部署と調整中だ。正課外でも低年次向けの課題解決プロジェクトや「IT業界仕事体験ワークショップ」なども実施している。また、本学には独自のスキルアップ制度として、難関試験突

破プログラム「KIPPLAS」がある。就職に役立つ資格を入学直後から学び始めて段階的に資格を取得していく。近年注目のジョブ型採用にも対応する形だ。国家公務員総合職コースと公認会計士コースがあり、前者は宅地建物取引士試験と行政書士試験の合格を中期目標として、国家公務員総合職を目指す。後者は日商簿記検定試験3級・2級合格を中期目標に、ゴールは公認会計士資格の取得だ。ここ2・3年は国家公務員総合職の内定者、公認会計士合格者を毎年輩出しており、また多くの学生が日商簿記2級や宅地建物取引士の資格を取得し、就活に生かしている。今年度の受講者は合わせて700人を超え、学内での課外講座は熱気に包まれている。先輩合格者の存在が、学生の励みになり、学生が自分の可能性や、能力を開花させる

きつかけにもなっている。今年度からは、父母ら（保証人）を中心に組織される若木育成会の支援のもと資格取得者に対する報奨制度も設けられたので、より多くの学生に活用してほしい。たまプラーザキャンパスで学ぶ学生にも、オンライン上での支援も含めて、渋谷キャンパスの学生と同等の支援が受けられるように進めている。特に、観光まちづくり学部は最上級生が3年生になったので、就職への不安を解消できるようサポートしたい。

就職支援は就職部だけではなく、全学の課題だ。昨年は、教員対話のガイダンス「就職活動の現状と支援を知る」を開催し、教員に、現在の「就活の実態を理解してもらった。本学の就活に関わってほしい」とも言えるほどに、年間を通して多様な支援を実施している。これは、学生に気づき、発見の機会を提供して自走を促す「おせっかい」であり、学生は必ず自身の能力を開花させ、進みたい道を切り開いてくれると確信している。



なかそね・れいこ

法学部教授。法学修士。専門は会社法、金融商品取引法（資本市場法）。主な著書に、共著書『金融商品取引法の理論・実務・判例』（勁草書房、2019）、共著書『新基本法コンメンタール【第2版】会社法1』（日本評論社、2016）、共編著書『金融商品取引法実務ハンドブック』（財経詳報社、2009）など。

インフォダイジェスト

- …在学生 …保証人 …卒業生 …一般 …受験生
- 内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申込み 問い合わせ

イベント 30 高校生向けコンテスト作品募集

- ①第28回全国高校生創作コンテスト
- 【部門】
- ▶ 短篇小説の部（1人3篇以内＝1篇4000字以内）
 - ▶ 現代詩の部（1人3篇以内＝1篇45行以内）
 - ▶ 短歌の部（1人3首以内）
 - ▶ 俳句の部（1人3句以内）
- 【表彰】 最優秀賞（各部門1人、賞状・副賞5万円・記念品）、優秀賞（各部門2人、賞状・副賞3万円・記念品）、佳作（各部門5人、賞状・記念品）、文部科学大臣賞（1校、賞状・副賞5万円相当の図書カード・記念品）
- ②第20回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト
- 【部門】
- ▶ 地域文化研究部門（祭り・伝統行事・郷土料理・方言などの調査研究＝個人・団体）
 - ▶ 地域民話研究部門（昔話・伝説など民話の調査研究＝個人・団体）
 - ▶ 学校活動部門（学校やクラス単位での生徒による調査研究や活動実績に関する報告に、活動を通じて生徒の「学び」がどのように向上したかについて担当教員によるレポートを加えたもの）
- 【表彰】
- ▶ 地域文化研究部門・地域民話研究部門：最優秀賞（個人・団体各1作品、賞状・副賞5万円・記念品）、優秀賞（個人・団体各2作品、賞状・副賞3万円・記念品）、佳作（個人・団体各2作品、賞状・記念品）
 - ▶ 学校活動部門：優秀賞2校（賞状・副賞3万円相当の図書カード・記念品）
 - ▶ 折口信夫賞：1作品（賞状・研究費5万円・記念品）
- 応募について
- 【応募期間】 7月1日(月)～9月6日(金) ※必着
- 【応募条件・概要】
- ▶ 高校生であること
 - ▶ 自作未発表のもの

【応募方法】 各コンテストのHP（二次元コード）にアクセスしてください。

▶WEB応募
HPにある受け付けフォームから必要事項を入力して登録してください。作品の提出は、登録後に提出方法をメールでお伝えします。

▶郵送応募
HPから専用の応募用紙を印刷し、必要事項等を記入して応募してください。

第28回全国高校生創作コンテスト

第20回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト

【発表】 11月中旬に入賞者に通知、主催者HPでも公表します。

岡 高校生新聞社コンテスト事務局
(☎042・724・2750 ㊟042・724・2860)

※お知らせいただいた個人情報は、主催者において本コンテストの審査、本人および学校への連絡や資料の発送に利用いたします。なお、個人情報を第三者に提供することはありません。応募作品の返却は不可、入賞作品の著作権は当主催者に帰属します。

公開古典講座

㊟昭和初期に開講した「万葉講座」の流れを受け継ぐ伝統ある講座です。「万葉集」と「源氏物語」の2講座で、それぞれ1日2講、5日間で10講を実施します。学内外の研究者が講師となり、作品の魅力に迫ります。

㊟7月24日(水)～28日(日)

場 渋谷キャンパス常磐松ホール

料 各講座1日2000円。全日程申し込みの場合は割引制度があります。詳細はお問い合わせください。

㊟7月10日(水)まで ※必着

申し込み方法は、①WEB（二次元コード）②FAX（03・5466・0394）③郵送の3方法。

詳細は大学HP（二次元コード）からご確認ください。

㊟エクステンションセンター（☎03・5466・0270）

キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

就活 Re スタート講座

㊟就職活動を継続している方も、これから活動を始めることになった方も、気持ちを新たに、これからの作戦を組み立てましょう。

夏からの就職活動の進め方や考え方、夏選考の優良企業との出会い方、これからの選考対策やサポートの活用方法などをお伝えします。

㊟7月17日(水)

㊟学部4年生・院2年生

第1回求人フェア

㊟夏季採用は、選考のスピードが速いことが特徴です。皆さんの就活状況に応じた情報提供、個人面談も実施いたします。

㊟7月17日(水)

㊟学部4年生・院2年生

博物館

料 無料
時 10～18時（最終入館17時30分）。
祝日を除く月曜休館

※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

企画展「神輿一つながる人と人」 MIKOSHI - The Portable Shrine -

㊟神輿を用いた祭礼は平安時代の中頃に成立し、その後、各地に普及しました。全国各地で行われている祭礼は、地域の環境や歴史を反映しながら形成されていき、地域の人々によって伝承されてきています。本展では、本学が所蔵する祭礼を描いた屏風、絵巻、刷り物などから「神輿とは何か？」をひも解き、「祭りの力」についても考えます。神楽舞・雅楽・神輿などの学生サークルとの関連イベントも期間中開催。

㊟6月29日(土)～9月16日(月・祝)

場 博物館企画展示室

ソフトテニス部

春の大会で女子ダブルス優勝 女子リーグ戦準優勝

国学院大学ソフトテニス部が所属する関東学生春季リーグ男女1部が5月11、12日にサニーテニスコート（千葉県白子町）で行われ、同部女子は準優勝となった。

同部女子は初戦で優勝候補の早稲田大学と対戦。1試合目は久保田茜選手(日文4)・原千晴選手(中文4)ペアが5-3で勝利。シングルスでは濱島怜奈選手(初教3)が4-1で勝ち、庄司琴里選手(初教4)・高嶺心萌選手(中文3)ペアも5-0で勝利し、3戦全勝で勝利を収めた。その後も強豪大学を次々と撃破し4勝1敗・勝ち点4で準優勝となり、6月に滋賀県で開催される全日本大学ソフトテニス王座決定戦への出場権を獲得した。男子は1勝4敗・勝ち点1で6位となった。

5月3、4日の第31回関東学生ソフトテニスシングルス選手権大会では同部女子の濱島選手が準優勝。5月13、14日のダブルスの第75回関東学生ソフト

関東学生優勝の庄司選手（左）・高嶺選手ペア（同部提供）

テニス選手権大会では、同部女子の庄司選手・高嶺選手ペアが優勝を果たし、同部男子の飯田航仁選手(観まち2)・黒須証暉選手(神文4)ペアも3位となった。5月25、26日の実業団選手も参加する第75回関東ソフトテニス選手権大会では同部女子の久保田選手・原選手ペアが3位と同部選手の活躍が目覚ましい。

卓球部

2部リーグ戦で優勝した同部女子／写真・卓球メディアRallys

リーグ戦 女子が優勝、男子が準優勝

関東学生卓球リーグ戦で男女とも2部に所属する国学院大学卓球部は、5月9日から11日に所沢市民体育館（埼玉県）で行われた春季リーグ戦に臨んだ。

同部女子は、初戦の順天堂大学に4-0と圧勝し勢いに乗ると、第2戦で令和5年度秋季リーグ戦で準優勝の青山学院大学に4-2と勝利を収めた。勢いそのままに東京女子体育大学に4-0、大正大学に4-2、東京経済大学に4-0と快勝し5勝0敗でリーグ戦全勝優勝、5年ぶりの1部復帰を果たした。

同部男子は、初日に行われた埼玉工業大学戦、大正大学戦ともに0-3と追い詰められながらも、ダブルスから流れを作り4-3と逆転勝利を収めた。その後、全勝で最終日を迎え日本体育大学戦に挑むも3-3のラストまでもつれる展開となったが、僅差で敗れた。この結果により4勝1敗でリーグ戦2位となり、1部7位校である駒沢大学との入れ替え戦となった。6月2日に行われた駒沢大学との入れ替え戦では、3-4とあと一歩及ばず、1部昇格とはならなかった。

夏の過ごし方で就職活動（就活）の成否が決まると言われる昨今。インターンシップなどの申し込み締め切りが迫る中、学内の四つの就職支援部署や、夏の過ごし方についてのアドバイスを紹介します。

渋谷キャンパス



希望就職先

教職

教職センター

● 渋谷キャンパス 百周年記念館1階

仕事のリアルを体験できる業界別イベントの開催や職員・学外の「キャリアアドバイザー」・4年生の「内定者アドバイザー」による面談を通して、学生の就職活動を幅広くサポート。

公務員を志望する学生への模擬面接指導、個別面談なども実施しており、たまプラーザキャンパスの学生も利用することができます。WEB面談室の予約や就活に役立つ資料の閲覧・利用も可能です。

● 渋谷キャンパス 百周年記念館1階

主に中学・高校教員を志望する学生に教員免許取得や教員就職に向けた支援を行っています。教職課程の履修相談や、教員免許取得に必要な介護等体験や教育実習の斡旋も受け付けています。

また、教員採用試験対策講座等も企画・運営。資料コーナーでは教科書や参考書の貸し出しもできます。教員経験者が教職アドバイザーとして常駐しているので、何でもご相談ください。

たまプラーザキャンパス



希望就職先 **神道研修事務課**

●たまプラーザキャンパス 1号館1階

たまプラーザキャンパスでは就職活動支援として企業・公務員、教員・幼保採用についてアドバイスをする専門のアドバイザーをそれぞれ置き、きめ細かく個別指導を行っています。

たまプラーザ事務課就職担当で特に大事にしていることは、資質や能力、個性を引き出せるように、丁寧に学生をサポートすることです。私たちと一緒に「就活力」を身に付けていきましょう。

● 渋谷キャンパス 若木タワー3階

神道研修事務課は国学院大学の歴史の中で神社界と密接な関係を構築している独自性を持った部署です。

神道研修事務課では神社実習や神社での助勤（アルバイト）、神職資格（階位）の申請を通じて神職を目指す方へのサポートをしています。神社界への就職（奉職）希望者に対し、奉職説明会や奉職個別面談などを実施していますので、遠慮なくご相談にお越しく下さい。

スローガン
インターンシップ参加
“目標20社、
最低10社”

インターンシップは近年、参加した学生の中から良い学生を早期に囲い込み、早期内定を出していく機会とする企業が増えています。これまでの「仕事を知る」「企業を知る」という役割だけでなく、就職活動の行方を左右する大きな要素となっています。3年生の3月から就活がスタートするのではなく、夏のインターンシップから就職活動がスタートしているのが実態です。「早期からの活動開始」がポイントですので、3年生はもちろん、1～2年生もキャリアサポート課のガイダンスなどに参加してみてください。また、大手優良企業の中にはインターンシップ経由でのみ採用するケースもあります。

インターンシップ不参加者

- 企業研究や社風の理解が進む
- 早期選考で早期内定を獲得

- ❓ 志望業界・企業を見つけられない
- ❓ 選考が遅く見通しが立たない

3 年 生										4 年 生									
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
夏 から スタート！	自己分析(自己PR)																		内 定 式
	業界・企業研究(志望動機)																		
	筆記試験・面接等の選考対策																		
	インターンシップ																		
	早期選考・早期内定 (採用直結パターンが増加)																		
インターンシップを通じて 採用活動が行われている！ 3月までに内々定を 保有している人も多数										プレエントリー 企業説明会 ES提出 筆記試験 面接 内々定									

「企業セミナー」は、9月下旬から10月の間ほぼ毎日、各業界の優良企業約70社（令和5年度実績）の人事担当者が、本学学生のためだけにオンラインでのセミナーを開催するイベントです。BtoB企業など、まだ知らない優良企業を知る良い機会です。1～2年生も参加できるので、必要以上に身構えずキャリアを考えはじめることができます。

令和5年度参加企業実績：集英社、小学館、講談社、清水建設、朝日新聞社、三井住友銀行、野村證券、旭化成、帝人、JALスカイ、東海旅客鉄道、帝国ホテル、太平洋セメント、日本アクセス、ANACargo、OKI、シャープグループ etc

夏から行動量を増やし、
「これだ」と思える会社に出会う

3年生の夏のインターンシップに30社以上参加して、10月からOB・OG訪問を始めました。年明けの2月には志望企業が絞られてきたので、以前訪問をした方々に別の方を紹介してもらい、1社につき複数人の社員を訪問しました。就職活動で大切なことは行動量。最初に社会人に連絡するのは勇気が必要ですが、会う人と回数が増えると次第に慣れてくるので、少しでも早く、一歩を踏み出そう。 **令和6年3月卒 大手金融機関就職**



柔道部



男子66kg級を制した三好選手（左から2人目・同部提供）

三好選手
ジュニア国際大会優勝

スペイン・マラガでジュニア国際大会が5月18、19日に開催され、国学院大学柔道部から男子66kg級で日本代表として出場した三好優希選手（法1＝写真）が優勝を飾った。

本大会は、各国から将来のシニアでの代表候補となる選手が集う国際大会。男子部門には21カ国から212人が参加。中でも三好選手の男子66kg級には45人が参加し、最多タイの人数がひしめく激戦区となった。

三好選手は予選リーグ1回戦から4回戦までの4試合中3試合で一本を奪い、準決勝へ進出。準決勝でもドイツ代表選手と延長戦になる中、大内刈りで技ありを奪い優勢勝ちで制した。決勝

戦ではイスラエルの代表選手と対戦。優勝を懸け両選手が一進一退の攻防を繰り広げると試合は延長戦へ突入。両者一步も引かずに進む中、相手選手は指導を3回取られ反則負けとなり、国際大会での初優勝を決めた。

同部は、5月26日に日本武道館（東京都千代田区）で行われた、7人の団体戦で行われる男子73回東京学生柔道優勝大会に出場した。東京理科大学、中央大学を降し、準々決勝で日本大学との対戦に臨んだが惜しくも1-2で敗れ、ベスト8の結果となった。この結果、6月22、23日に開催される全日本学生柔道優勝大会への出場権を獲得した。

陸上競技部

関東インカレ
5選手入賞の活躍

第103回関東学生陸上競技対校選手権大会が5月9日から12日にかけて、国立競技場（東京都新宿区）などで行われ、男子2部に所属する国学院大学陸上競技部からは5選手が入賞した。

9日に行われた10000m決勝では青木瑠郁選手（健体3）が28分16秒32で8位入賞。10日の1500m決勝では尾熊迅斗選手（健体1）が3分54秒37で7位に入賞した。12日の3000m障害決勝でも桶田一翔選手（経1）が自己ベスト記録の9分1秒18で8位となった。12日のハーフマラソン決勝では高山豪起選手（法3＝写真）、辻原輝選手（史2）など3選手が出場。高山選手は後半、積極的にロングスパー

トを仕掛けていき、一時トップに躍り出る。デッドヒートを繰り広げるも追いつかれ、結果1時間3分14秒で3位となった。辻原選手も1時間4分17秒で7位に入賞した。

同じく5月12日に、仙台市内を巡るコースで開催された仙台国際ハーフマラソン2024では、吉田鐘選手（法4）がエリート



ハーフマラソン3位の高山選手（右）／写真・月刊陸上競技

の部で出場。1時間5分36秒で、学生1位（総合20位）でゴールした。

硬式野球部

東都大学野球春季リーグ
大接戦の中、1部残留

国学院大学硬式野球部が所属する東都大学野球1部春季リーグが5月30日に閉幕し、同部は5位で、1部残留を決めた。

第5週終了時点で、勝ち点0と厳しい状況の中、第6週では亜細亜大学、日本大学と対戦。22日に行われた亜細亜大学との第3戦は、1-1で迎えた八回表、柳舘憲吾選手（法4）が勝ち越しの本塁打を放つなど3-1で勝利し、今季初の勝ち点を手にした。続く、24日に行われた日本大学との第2戦では、五回表に仲村光陽選手（健体4）の2ラン本塁打、赤堀颯選手（経営2）のセンターへのタイムリーヒットなど打線が爆発。一挙

6点を加え、11-3と快勝した。

最終第7週では、30日に日本大学との第3戦が行われた。二回終了時点で、2-1と両者一步も譲らない展開の中、三回表に土山翔生選手（経営4＝写真）が決勝点となる本塁打を放つ。その後も、小刻みに追加点を加え、9-2で勝利した。

この結果、同部は4勝8敗・勝ち点2の5位で春季リーグを終えた。優勝は青山学院大学で3季連続15回目。投手陣の要となった飯田真渚斗選手（健体3）は防御率1.01で最優秀防御率賞を獲得した。同部は9月から始まる秋季リーグでの巻き返しを図る。



決勝点となる本塁打を放った土山選手